

琵琶湖・淀川流域で顕在化している課題について

1. 治水・防災上の課題

A) 「川の中」の課題

-

B) 「川の外」(地域住民の方々が暮らしている側)の課題

-

2. 利水上の課題

-

3. 環境上の課題

-

4. 水辺（湖沼・河川・水路・ため池など）の利用上の課題

•

5. その他の課題（自由記入）

被災過程が分かる水害記録について

流域での治水対策を検討するためには、その地においてどのような因果関係で水害が生じたのか、属地的・属人的な情報を分析し、再発防止のための対応を検討することが重要です。そこで、各自治体で所管されている水害誌などで、具体的な被災過程が分かる資料をお持ちかどうか、「ある」「分からない」「ない」でお答えください。「ある」とお答えいただいた場合、資料名を分かる範囲でお教えてください。

A) ある

(資料名)

--

B) 分からない

C) ない

(参考) 具体的な被災過程が分かる情報の例

- ・ 氾濫する前に避難を呼びかけようとしたが、当時、戦時中であったため半鐘が徴用されており、知らせる手段がなく逃げ遅れが生じた。
- ・ 避難勧告が出され避難所へ向かったが、その途上で水没した水路に落ち命を失った。

なお、この質問で「ある」とお答えいただいた場合には、後日、資料をお貸しいただくようお願いすることがございます。

最後に、ご担当者のご所属、職氏名、ご連絡先をご記入ください。

【所属】

【職氏名】

【電話】

【電子メール】

ご協力ありがとうございました。

琵琶湖・淀川流域で顕在化している課題について

1. 治水・防災上の課題

A) 「川の中」の課題

(記入例)

- ・ 河川整備が上流部に及ぶまでに時間がかかっている。
- ・ 河道内樹木の繁茂や護岸の劣化が進んでいるが、河川管理者の対応が遅れている。
- ・ 河川愛護団体の高齢化が進み、地域での維持管理活動が難しくなっている。
- ・ 財政が逼迫し下水道(雨水)整備に十分な予算を投じられない。

B) 「川の外」(地域住民の方々が暮らしている側)の課題

(記入例)

- ・ 内水氾濫時の避難勧告基準がなく、その場での判断にならざるを得ない。
- ・ 避難を呼びかける場合に2階避難と水平避難の判断が難しい。場所によっては2階避難でも危険なところがある。
- ・ 浸水が常襲する箇所での開発により被害が生じているが、整備が追い付かない。
- ・ 災害時要援護者の安全な避難体制の整備が遅れている。
- ・ 上流部の都市開発後、少しの雨でも浸水するようになった。
- ・ 山に間伐材が数多く放置されており、洪水時に土砂とともに河道を閉塞させる恐れがある。

2. 利水上の課題

(記入例)

- ・ 他に代替水源がなく、水源あるいは導水路に何かあった場合に対応できない。
- ・ 近年、頻繁に渇水が生じる。
- ・ 以前に比べて、普段の河川の流量が減り、瀬切れも頻発するようになった。
- ・ ため池などの利水施設の安全管理が十分でなく、地震時の決壊など心配である。

3. 環境上の課題

(記入例)

- ・ 河川整備後に瀬・淵がなくなり、樹木が繁茂するようになった。
- ・ 大渇水後に藻類が大量に繁茂するようになった。
- ・ 外来動植物の侵入が著しく、在来種が減少している。
- ・ 都市化が進んだが下水道整備が遅れており、水質が悪化している。

4. 水辺（湖沼・河川・水路・ため池など）の利用上の課題

（記入例）

- ・ フェンスで囲まれ川・水路に近づけなくなった。ごみが多く水質も悪いため近づけない。遊歩道などもなく、川にひとが集まる魅力がなくなっている。
- ・ 親水空間は整備されても、川で安全に活動するための指導者がいない。
- ・ 釣り客やプレジャーボート利用者がごみを放置して帰るなどマナーが悪い。

5. その他の課題（自由記入）
